

平成 19 年 11 月 22 日

各位

会社名 株式会社 平 和
代表者名 代表取締役社長 石橋 保彦
(コード番号 6412 東証第一部)
問合せ先 経営企画室長 坂本 浩之
(0 3 - 3 8 3 9 - 0 7 0 1)

業績予想の修正（連結・個別）および特別損失の発生に関するお知らせ

当社は、平成 19 年 8 月 9 日付「平成 20 年 3 月期 第 1 四半期財務・業績の概況」において公表した平成 20 年 3 月期の連結（中間期）および個別（中間期及び通期）の業績予想を修正し、また、平成 20 年 3 月期の通期の連結業績予想が確定いたしましたのでお知らせいたします。

なお、平成 19 年 8 月 9 日付「子会社の解散および清算に関するお知らせ」および「人員削減等の合理化に関するお知らせ」に記載の、子会社の解散および清算並びに人員削減等の合理化などの取り組みが、中間期および通期の業績に与える影響についても、併せてお知らせいたします。

記

- 平成 20 年 3 月期 業績予想数値の修正（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）
(1) 中間期（平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日）

連結

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期(中間期)純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	19,590	250	440	110	0円77銭
今回修正予想(B)	22,640	1,141	1,412	389	6円53銭
増減額(B-A)	3,050	891	972	279	-
増減率(%)	15.57%	356.4%	220.9%	253.6%	-
(ご参考)前中間期実績 平成 19 年 3 月期中間	29,984	1,366	1,216	488	4円27銭

個別

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期(中間期)純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	30,450	280	370	450	3円94銭
今回修正予想(B)	30,916	495	1,546	1,508	13円30銭
増減額(B-A)	466	775	1,916	1,058	-
増減率(%)	1.5%	-	-	-	-
(ご参考)前中間期実績 平成19年3月期中間	21,928	1,458	1,527	1,036	9円06銭

(2) 通期(平成19年4月1日~平成20年3月31日)

連結

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期(中間期)純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	-	-	-	-	-
今回修正予想(B)	75,170	3,780	8,930	7,100	69円43銭
増減額(B-A)	-	-	-	-	-
増減率(%)	-	-	-	-	-
(ご参考)前期実績 平成19年3月期	76,677	3,421	6,701	3,771	32円95銭

個別

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期(中間期)純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	76,190	4,540	5,260	3,080	26円90銭
今回修正予想(B)	67,540	2,670	4,240	690	5円34銭
増減額(B-A)	8,650	1,870	1,020	2,390	-
増減率(%)	11.3%	41.1%	19.3%	77.5%	-
(ご参考)前期実績 平成19年3月期	62,059	3,039	7,685	5,136	44円87銭

注) 当社は、平成19年8月1日をもって株式会社オリンピア(以下、「オリンピア」といいます。)を株式交換により完全子会社といたしました。ただし、「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号(最終改正平成18年12月22日 企業会計基準委員会))(以下、「企業結合会計基準」といいます。)上は逆取得に該当することになり、連結財務諸表は、当中間連結会計期間末にオリンピアが当社を取得したものとみなし、当社の連結財務諸表はオリンピアの連結財務諸表が基準となります。その結果、平成19年3月期決算短信時に当社が公表した連結財務諸表数値と、当中間連結会計期間の連結財務諸表数値との間には連続性がなくなっております。上記に記載した連結業績予想数値は、

オリンピア及び株式会社オリンピアエステート（以下、「オリンピアグループ」といいます。）の通期（平成19年4月1日から平成20年3月31日）の連結損益計算書計上額に、当社及び当社のオリンピアグループ以外の連結子会社（以下、「平和グループ」といいます。）の下半期（平成19年10月1日から平成20年3月31日）の連結損益計算書を連結した金額となっております。

2. 修正の理由

（1）中間期（平成19年4月1日～平成19年9月30日）

連結

当中間連結会計期間におきましては、遊技機規則改正によるパチスロ旧規則機の撤去に伴い、パチスロ機の販売台数は、当初計画比11千台増の80千台となり、売上高、利益とも前回発表予想の数値を上回る結果となりました。

なお、当社は平成19年8月1日をもってオリンピアを株式交換により完全子会社としましたが、企業結合会計基準上は逆取得に該当いたします。この逆取得に該当する株式交換は、当中間連結会計期間の末日をみなし取得日としているため、当中間連結会計期間の経営成績には平和グループの数値は反映されず、オリンピアグループの数値となっております。

個別

パチスロ機事業におきましては、1機種の販売を見送ったことにより、販売計画を3千台下回る64千台となりましたが、パチンコ機事業におきまして、当初販売計画を1シリーズ上回る3シリーズを販売し、販売台数も35千台から50千台に増加いたしました。この結果、売上高、営業利益及び経常利益は、前回発表予想の数値を上回る結果となりました。

また、平成19年8月9日付「子会社の解散および清算に関するお知らせ」および「人員削減等の合理化に関するお知らせ」にて公表した通り、子会社の解散および清算並びに人員削減等の合理化を実施いたしました。その結果、子会社の解散及び清算等に伴い「関係会社株式評価損」として22億円、人員削減等の合理化に伴い「特別退職金」として10億円を特別損失として計上いたしました。その他の特別損失として「役員退職慰労金」3億円、「役員退職慰労金引当金繰入」3億円、「固定資産除去損」1億円等を計上しております。

（2）通期（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

連結

当初は、オリンピアを株式交換により完全子会社化したことによる業績変動要因を合理的に算定することが困難でしたが、今般、通期の連結業績予想が上記の通り確定いたしました。

なお、平成19年8月9日付「株式会社オリンピアの完全子会社化に伴う会計処理及び連

結業績予想修正に関するお知らせ」にて公表した「負ののれん（概算：500億円、償却予定年数：5年）」につきましては、計上額：450億円、償却年数：5年となりました。これに伴い、下半期におきましては、営業外収益として「負ののれん」の償却額45億円を計上し、また、特別利益として「関係会社清算益」10億円等を見込んでおります。

個別

平成16年7月の遊技機規則改正に伴い、新規機種の導入による一時的な資金負担の増加等により、今後、パチンコホールは、パチスロ機に比べ相対的に売上に貢献するパチンコ機をホール経営の主軸に据えてくるものと予想されます。上記、中間期個別の修正理由のほか、市場動向を踏まえ販売計画の見直しを行った結果、売上高、利益とも、前回発表予想を下回る見込みです。また、下半期におきましては、特別利益として「関係会社清算益」10億円等を見込んでおります。

3. 今後の見通し

来期以降、年間25億円の人件費削減を見込んでおります。また、今後5年間に渡り、営業外収益として「負ののれん」の償却額90億円（年間）を見込んでおります。

以上